

しろくま通信



先々週からお彼岸について書いています。

仏の六波羅蜜をもちいて煩惱の火を消して、幸せに生きることを考えてみましょう。たとえば、煩惱の火を消すには、水をかけても灰神楽(はいかぐら)が立って汚れるだけです。火を燃やしている薪(まき)をくべなければ、火は自然と消えます。嫌なことがあってカッとなったとき、数秒我慢すれば気持ちは治まります。ここで心に任せて反撃に出ると、相手との間や周りに長く問題が残ります。カッとなって怒りの薪をくべるとしなければ煩惱の火は自然と消えていくでしょう。

彼岸は春と秋にあります。春分の日と秋分の日の中日を真ん中に、前後三日有りますから、それぞれ「布施」「持戒」「忍辱」と「精進」「禅定」「智慧」を実践し、挟まれた中日で彼岸に思いをはせることができれば良いですね。

キリスト教は、人々を教会によんで説教をしてくれます。教会の塔にある鐘は「カーン、カーン」と鳴っていますが、「Come、Come」と呼んでいるようにも聞こえます。仏教は向こう岸に行ってしまうことがテーマです。お寺の鐘をつく「ゴーン、ゴーン」と鳴りますが「Gone、Gone」と言っているようには聞こえてきませんか？

六波羅蜜(ろくはらみつ)

- 一、「布施」 他人へ施しをすること
- 二、「持戒」 戒を守り、反省すること
- 三、「忍辱」 不平不満を言わず耐え忍ぶこと
- 四、「精進」 精進努力すること
- 五、「禅定」 心を安定させること
- 六、「智慧」 真実を見る智慧を働かせること



前回のしろくま通信はホームページで観覧できます

<http://babayakkyoku.com/>

ホームページは「しろくま薬局」ですぐに検索！！

